

姉属性専門誌

全姉連会報

第3号

2004 下半期

姉ゲー総レビュー

いよいよ安定期の姉ケー界

混沌の姉時代を生き抜くための1本は？

静かに忍び寄る良質ママケーの未来は！？

ただものではないお姉さんナースに囲まれる幸せ入淫生活

『ナースにおまかせ!』

大きな期待を背負った“姉10人”ゲームの実力は？

『姉とボイン』

あの元祖ダダ甘姉ゲーの流れをくむ学園ラブコメ

『LostLife ～だけどきみにつたえたいこと』

ウェイトレス姿の似合う優しい姉と半同糖♪

『アメリカカーノ・プリーズ』

姉と妹にはさまれる家族内恋愛ドラマ

『あねいも～アイとHのステップアップ』

家族のような住人達とのヒューマン・ドタバタ・ホームドラマ

『まもらび』

他、オススメ姉コミック批評も収録

初めましての方も、おなじみのかたもこんにちは。
この度は全姉連会報をお手にとっていただき、ありがとうございます。
全姉連会報も3号目突入。
内容に進歩は見られませんが、今号もよろしくおつきあい下さい。

＊

一応、全姉連のご紹介を。

全姉連は「お姉さん」の魅力を世界に広め、推進していく非政府組織(NGO)です。
姉属性の普及、弟同志の情報交換を主に行っています。
全姉連総本部はWebサイト上で活動していますが、
C65よりコミケへ進出しました。

本書は、私・全姉連総裁が実際に触れて体験した
姉ゲー・姉コミックなどについてレポートするものです。
今号は、おおむね2004年半ばから2004年末までに
発売された姉ゲーを中心にレポートしています。

＊

ようやく姉ゲーが「ブーム」から「定番」になり、
姉属性待望の書「姉ゲーム大全」が発売されるまでになりました。
“ヒロイン全員姉”とか、“世話焼き・ダダ甘姉”の甘い言葉も、
「ほお…」と流せるようになりました。

…嘘です。姉とか姉貴とかお姉さんの言葉には
今でも心躍らされます。骨抜きです。
そんな相変わらずの全姉連主宰者ですが、
どうか見捨てないで下さい、お姉ちゃん。

＊

それでは、本書が迷える弟のよりよい姉ライフの一助となることを祈って。

全姉連会報 第3号

目 次

■ 『ナースにおまかせ』 (アトリエかぐや)	5
■ 『姉とボイン』 (G.J?)	9
■ 『Lost Life～だけどきみにつたえたいこと』 (Overall)	12
■ 『アメリカーノ・プリーズ』 (アクトレス)	16
■ 『あねいも』 (ぷちぱじゃま)	19
■ 『ままらぶ』 (HERMIT)	22
■ 2004 下半期 姉コミックレビュー	24
■ 姉コラム ～漫画に見る「ジョーカー姉」～	25

- ・ 全てのレビューは、私・全姉連総裁が実際にプレイして書かれています。
- ・ 評価は、「姉ゲー」観点からなされていることに十分ご注意ください。
いかに一般的な観点からは良いゲームでも、姉萌え度が低いゲームは
評価が厳しくなっています。(もちろん逆の場合もあります。)
- ・ “ジャンル” は、メーカー公称のジャンル名です。
- ・ 各レビュー冒頭のあらすじは、メーカーによる紹介文の引用です。
レビュー本文は核心に触れない程度でネタバレしないように書いています。
もっとも、個人差がありますので、ご注意ください。



ナースにおまかせ

メーカー	アトリエかぐや
ジャンル	ラブラブイカされ入院生活 AVG
発売日	2004 年 9 月 24 日

主人公、早瀬郁哉はコンビニでアルバイトをする中、いつもお昼のお弁当を買いに来るお姉さんに思いを寄せていた。

そんなある日、ひょんなことで郁哉は近所の病院に担ぎ込まれ、入院する事に……

なんと郁哉を担当することになったのは、あの憧れのお姉さん・白川涼子だった！

かくして、郁哉の恥ずかしくも甘〜くえっちなナースだらけの入院生活が始まったのです。

■大感動の姉ゲー！

興奮で鳥肌が立った、背筋がゾクゾクした、顔の筋肉が制御不能に陥った。この世には、まだこんな凄い姉ゲーを生み出す力があったのか……

2004 年下半期、紛れもなくベスト姉ゲー。この病院に入院せずして今年の姉を語るなかれ。

全ての姉属性にお勧めできる姉ゲー、『ナースにおまかせ』。

■大満足の本！

2003 年に『人妻コスプレ喫茶』で、人妻初心者にもその魅力を巧みにアピールし、『ドキドキお姉さん』では正攻法で姉ゲーを世に送り出した¹アトリエかぐや。美しいグラフィックに濃厚なテキスト描写、ベテラン声優の名演技と、非常に質が高く隙の

ない作品ばかりで、全面的に信頼できるソフトメーカーであるのは、わざわざ私が力説するまでもないこと。

そのアトリエかぐやが 2004 年 9 月にリリースしたのが『ナースにおまかせ』。

「新作は病院&ナースの定番シチュエーションで、さぞ酒池肉林な入院ライフが楽しめるんだろうけど…今回はナース属性に譲って、姉属性は静観するか」

なんて最初は思っていたんです、恥ずかしいことに。

そうしたら、全姉連サイト他あちらこちらで、

「見事なまでに全員お姉さん」

「素晴らしい！」

「究極」

の評価が！

これはイカン！と慌てて買いに走り、他の積み姉ゲーを差し置いてプレイしてみれば、もう完全に撃沈。危うくこんな素晴らしい姉ゲーを見落とすところでした。

前置きはさておき、本作は凶暴な破壊力を持った姉ゲーです。ナースは、入院患者にとって優しく身の回りの面倒を見てくれる職業上、世話焼きお姉さんの側面もあるで、もともと姉ゲーとの親和性も高いのですが、本作もそれが良い感じで実現されています。

それでいてなお、ありきたりの並のナースゲーなど消し飛ぶような姉度の強いゲームで、むしろ姉要素の方がずっと強く感じられるほど。

¹ 姉ゲーとしては惜しまれる点も多少あったのだが、それでも十分に良作。

登場ヒロインは、年上ナース3人に女医1人の計4人。ナースはそれぞれタイプの違う個性的なキャラで、元気で陽気なお姉さん、ちょっとサド気味だけど可愛いお姉さん、ドジっ娘要素があって甘えたがりな面もあるお姉さん。女医は若くして院長のやり手でクール、年下好きな先生。中でも姉要素がずば抜けて高いのは、陽気系お姉さんの涼子さんなのですが、他の3人もそれぞれの個性で姉(年上)を表現してくるので、第一印象で誰が好みでもご心配なく。

とにかく、朝から晩まで姉ナースと年上女医に構われまくりの、どたばたギシギシ明るく楽しい入院生活²が待っています。

■枯れるほどのエロライフ

とにかくイベントのほとんどがHに繋がります。この病院においては、エッチでなければ看護婦にあらず！の勢い。ナース服も超ミニにスリット入りというあり得なさだし。

大半のシーンは3回戦方式。アトリエかぐや謹製の、くんずほぐれつラブラブどろどろベタベタなHが心ゆくまで楽しめます。これで「H 方面が物足りない」なんて言う人がいたら、この先どんなゲームでも満たされないでしょう。

シチュエーションも、剃毛あり、ベッドの上で動けずになされるまま、お風呂に入ってもらって、診察台に寝かされて、等々、病院という舞台を上手に活かしながら、病院にとどまらず、個々のキャラのストーリーによっては、病院外の色々な場所にデートに出かけて、あっちこっちでサービス過剰です。ワンダホー。

また、特筆すべき点は、ほぼ全部が誘惑

され、あるいはリードされるままに…な点。主導権を握ろうとしようものなら、気持ち良い反撃を食らってしまうのも、「受け身上等！」な我ら姉属性には堪らないでしょう。

ちなみに、コンプリート後にシーン再生の数を数えてみたら、なんと全49シーン。方々で「枯れる一つ」の声があがったのは仕方ないことなのです。

■キャラクター

・白川涼子（陽気系ナース）

ノリが良くて、とことん陽気なお姉さん。最初に登場したときからもう一目惚れでした。個人的に理想の姉像そのものだったので。陽気で明るく、とびきり元気が良くて、姉(年上)としての自覚が強く、年下を愛情一杯にからかったりもてあそんだりするのが好きな、太陽のようなお姉さん。こんなステキなお姉さんは、数年に一度会えるか会えないかと言っても良いくらい！

特筆すべき特徴の一つ目は彼女の口調でしょう。まず、一人称がほとんど「おねーさん」であること。

自分のことを「おねーさん」と言うお姉ちゃんって良いですね。

そして二つ目は、年下の主人公のことを「この子」と呼んでくれることです。例を挙げると、

「それとも、おねーさんの言うことが聞けないの？」

「今、触られちゃったらさ、私の方が我慢できないよ。ここはもうちょっと、おねーさんらしくリードさせてよ。ね？」

「あははっ！ごめんごめん、しょんぼりしないの。もう、可愛いんだからこの子はー♪」

「あらあら、こまった子ねー。いつからそんなに甘えんぼさんになったのー。でも、おねーさん、そういうのクライじゃないけどね」

² 陵辱・寝取られ等の暗いストーリーは一切無し。読後感も良いです。

「この子」っていう呼び方がこんなに萌えるなんて！「子」は完全に子供扱い＝自分は姉(保護者)であるとの意識の表れですから。この呼ばれ方にゾクゾクしたら、かなり重度の姉属性と思われます。

次に、前述したように非常にノリが良く、年下を色香でからかうことが好きな点。

「はいはい、毎度ドーも。麗しの涼子おねーさんですよー」
「おっぱい好きなんでしょー。もっとじっくり見てくれてもいいんだよ。ほれほれー…」
「ほーら、うりうり…気持ちいい？」
「さあ、どういうカッコがいいの～？おねーさん、こっ恥ずかしいけどリクエスト聞いちゃうっ。可愛い男の子の淫らなお願いに逆らえないわ～ん♪」

ああっ、もう「うりうりー♪」とか「ほれほれ～」とかのいじられ方が最高！ほんの一部の抜粋なので、あとは本編で。

そして忘れちゃならない点は、ボイスが一色ヒカルさん³による至高の姉ボイスである点！テキストだけでも相当に姉萌えするというのに、この上さらに魅惑の語りを聞いたら身もだえすること必至。理想のお姉ちゃんボイスを 200%上回る名演技に心の底から酔いしれて下さい。

そんな涼子お姉さんですが、「近親関係の“姉”じゃないいでしょ？」とお思いの諸弟。嘆くのは早い。我々にとって一特に実の姉が居ない弟にとって、泣いて喜ぶ展開がきっとあります。信じる弟は救われます。

身も心も声も仕草も、全イベント全シーン、どこをとっても元気で陽気な涼子お姉さん。姉ゲー史に名を残す一人と言い切ってしまうていいでしょう。

³ Crescendo(D.O.)フルボイス版のあやめねーちゃんもこの人。天性の姉ボイスの持ち主。他にも姉キャラ実績あり。

・水谷舞（おっちょこちょいナース）

おっちょこちょいで、ほやっとしていて、眼鏡＋豊乳な看護婦さん。お姉さん要素は、他のナースに比べると若干控えめなのは否定しがたいところ。しかし、周囲が異常にレベルの高いこのゲームの中での話なので、普通に見たら十分姉。いや、どっちかというと母性的です。

性格的には、甘えん坊な面が見えます。姉好きの中では「甘やかしてくれる姉」の方の人气が強いですが、「甘えてくる姉」の人气も意外に根強いので、舞さんのようなキャラもちゃんと一人配置しておくところがアトリエかぐやの上手いトコ。

ドジっ娘看護婦の位置付けで、天然という属性も与えられていますが、やきもきさせられることもなく、要所はきちんと心得ているキャラクターに仕上がっています。

あとは「眼鏡・豊乳」に尽きます。その属性持ちは黙って突撃するが吉。

・御堂鈴（プチサド系ナース）

一見無口な綾波系？包帯巻いてるし…、と思われがちな鈴さんですが、実は結構なおしゃべりで、感情も豊か、はんなり京都弁でじわりじわりと締め付けるようなプレイがお好みの、いじめっ娘風な看護婦さんです。

そう！京都弁！鈴さんの魅力はたくさんあるのですが、真っ先に伝えたいのは京都弁とそのボイス。これが凄いんですよ。声優の涼森ちさとさんはネイティブなのかどうか知りませんが、流ちょうな京都弁で、息づかいの一つ一つまでまるで耳元でささやかれているような錯覚を覚える名演技。声の調子だけで、ここまで興奮させられるとは…。ボイス部分だけ一つのドラマ CDにしても十分成り立ちます。京都の人は言葉遣いは丁寧だが言ってる内容はきつい、とよく言われますが、言葉責めの巧みな鈴

さんにはまさにぴったりの役どころなのです。

性格はサドチックで、

「うちな、マゾの子は顔見たら判るねん。」
「郁哉くんはコンビニで初めて見た時から、ずーっと判ってたんやで？」
「ここは今後のためにもちゃんとお仕置きしておかんといかんあ…」

と、お仕置きに突入すること多々なんです。そんな酷いことをしてくるワケでもなく、あくまで主人公を悦ばせてあげるつもり、愛のある責めなのです。

強気な性格もあるものの、むしろそれがほころびたときに覗く可愛さが先に立ってしまい、どうしようもありません。

私のいい加減な憶測では、姉属性の約8割はM陣営だとにらんでいます。故に鈴さんのステキさはきっと多くの姉属性に理解されるものと思います。

・皇沙耶香（お色気女医）

舞台となっている病院の、女医にして若き院長。パッケージイラストからはなぜか弾かれてしまっていますが、見た目の通り、大人の色香ムンムンで、余裕を感じさせる年上女性。外見から受ける印象ほぼそのまま、実際の中身についても裏切られることはありません。

妖艶な魅力に付け加えて、主人公に対する性格は痴女。若い男の子をぱくっと食べるのが好きな痴女。診察は夜中の12時からとあり得ない時間にしておいて、

「気持ちいいんだ。その我慢している顔が可愛くてしょうがないぞ」
「今度から意味なく直腸検査しちゃおうかしら」

本物のお医者さんとお医者さんごっこ。一度で良いから、こんなステキな痴女に目

を付けられてみたいものです。

「姉」よりも「年上女性」と言った方が正確なので、年上女性の色香が好き、とおっしゃる諸弟には特にお勧めです。

■やらのきゃそグリの姉ゲー

どこをとっても、不満らしい不満が見あたりません。巨乳だめとか、病院や看護婦にトラウマがあるなど、余程の理由が無い限り、全ての姉ゲーファンに勧められる1本です。

強いて言えば、ストーリーに楽しみの重心を置くプレイヤーだと、その点で物足りなさを感じるかも知れないのですが、姉属性を自覚する一人ならば、本作に限って余裕の合格点が付くでしょう。『ナースにおまかせ』は、エロ可愛いお姉さんナースにじられ、エッチなイベントを通じて親密になっていくゲーム。もうそれだけで十分ですから。

それにしても、登場人物4人が全て個性的で上手にかみ合っているのも良いところ。本作にも、3P4Pのような複数プレイのイベントが多々用意されていて、どの組み合わせもきれいに収まっており、サマになっています。主人公と1対1の会話だけでなく、ヒロイン同士の掛け合いがしっかりと用意されていて、しかも活き活きとしているのは、「人妻コスプレ喫茶」「ドキドキお姉さん」からのアトリエかぐやの伝統。あ、もちろんハーレムエンドもあります。おまけ程度ではなく、最後まで楽しませてくれようとする姿勢が窺えるエンドです。

クリアするのが勿体なく感じる、一通りコンプリートしても、ふと起動して読み返したくなる、なかなかこんなゲームはお目にかかれません。姉好きならやって損無し保証のゲーム。今号の会報で間違いなく一押しのゲームです。未プレイなら是非！



姉とボイン

メーカー	G.J?
ジャンル	姉とボインのお手軽エッチADV
発売日	2004年10月29日

「もう疲れたよ・・・バト〇ッシュ」

そう呟いて、おそろべし「姉」達から逃げお世話のは1ヶ月前のこと。ということは、アパートでの1人暮らしを始めてから、それしか経ってないわけで・・・。

なのに今、目の前に見知った姉が1人、俺にプロレス技をかけているわけで・・・。その姉いわく、俺を連れ戻しにきた理由は「退屈だから」。

「家には帰らない」と、世界の中で叫んだものの俺に発言権はないらしく、強引な姉1号にあっさり連れ戻されてしまう。

そして、1ヶ月ぶりの我が家を前にふと脳裏をよぎるのは・・・。「姉達との思い出の数々」

- ある姉からストレス解消の道具に使われてたこと。
- ある姉から風呂場で無理矢理背中を流される日課。
- ある姉から誘惑なんてされてたこと。

まだまだある・・・性的いた〇らを受けていたなんて、とても人様に言えないこととか。

そもそも、帰ってみると、姉の数が増えてるのは気のせいかな？まず、その重要な部分の説明を求めたい所ではあるが勿論この姉達はちゃんと説明してくれません。

ええ、わかってました。「習うより（再び）慣れろ」

そんなこんなで・・・。せっかくの休みが始まろうとしていた。

■お姉ちゃん数、2桁突入

『姉とボイン』、そのタイトルを聞いただけで、姉ゲーファンの一人としては十分だった。それなのに、「男のロマン溢れる 10人の姉との同時H」のキャッチコピー。10人？10人だって？姉ゲー史上初の2桁の大作。これは期待せずにはいられないってもんです。

■期待していたのに・・・

10月最終週、ただでさえ発売本数の多い上に、姉要素を含んだゲームも多かったこの日、実は期待半分・不安半分でした。10人ものヒロインを登場させているのに、定価 5800 円。事前の体験版公開も無し。しかし、「姉 10 人」なんてゲームは、良からうが悪からうが突撃せねば、全姉連総裁の名がすたる、そう意気込んでいました。

そして、敗北。

別に、期待が大きすぎたから失望したとか、そんなんじゃないんです。どう見ても物足りない。「姉」をタイトルに冠しているのに、姉要素が低いのはあまりにも看板に偽り有り、羊頭狗肉でしょう。

そう、まず何と言っても姉萌え要素が低すぎ。本書のレビューは姉要素を何より重視しますが、今号のゲームの中で最も評価が下です。登場姉 10 人のうち、甘く見てもかろうじて姉と言って良いのは2～3人。他の登場キャラは、あえて「姉」としなくても、単なる同居人という程度の味付けなのです。姉として登場させるなら、甘い姉なり厳しい姉なり、姉弟独特のセリフ回しやぶつかり合いを描いて欲しいものですが、本作はその辺の配慮が欠けてしまっています。この点だけで「このゲームは姉好きのスタッフが作ったものでもなければ、姉好きに向けて作ったものでもないんだな・・・」というのがバレバレ。

そして次に、各姉ごとのストーリーが非常に薄すぎる点。10 人も登場させて 5800 円の時点で、ある程度薄いことは予想できていましたが、これほどまでとは。

システムの説明も先にすると、各姉には「〇〇姉の場合(前編)」と「(後編)」が用意されています。それを前半 5 日間・後半 5 日間でどういう順番で見ていくかを設定することができます。注意すべきは、たとえば、れもん姉を前半で選ぶと、同じ前半ではもうれもん姉を選べないため、他の日は他の姉を予定に入れなければならないこと。つまり、常に 5 股がけで並行することになります。10 日間が終わった時点で、前編と後編を見終わった姉の中から誰のエピローグを見るかの選択肢が現れます。よって、一人にターゲットを定めて落としていくというプレイスタイルは使えません。いわば同時攻略強制システム。思うに、各姉につき前編・後編・エピローグの 3 イベントしか用意していないため、1 人に絞ってプレイすると 30 分も経たずに終わってしまい、薄っぺらい印象になるからでしょう。

また、前編・後編とは言いますが、各々は普通のエロゲーの 1 イベント程度の長さ。2 つ合わせてもストーリーと呼べるものではなく、短編と言った方が適切です。だとしても、短編の中に姉要素が盛り込まれていれば満足なのに、それさえ無くて残念。

そして最大の問題は、姉も弟(主人公)も「姉弟愛が足りない」こと。10 人のお姉ちゃんの中には過保護で甘いお姉ちゃんもいるのですが、ほとんどが弟に対しての愛が少なすぎ。エンディングに至っても、性欲のはけ口としか見ていないような姉も複数あり、非常に残念。一方、弟も姉に対する愛情が少なく、あろうことか姉を避ける態度が目につく始末。「待て待て、相手は姉だぞ」「姉じゃなかったら良かったのによお…」などと、むしろ近親関係にあることを

嫌悪しています。そもそもこの話、姉ばかりの家庭が心底嫌で抜け出してきたシーンから始まる時点で間違っているんですが。

とまあ、姉ゲーとしては大いに不満が残る内容でした。これでもか、という素敵なボインっぷりのグラフィックは合格点なのに、それが活かされず勿体ない。

■キャラクター

・花丸れもん（やさしい姉）

弟溺愛気味のやさしいお姉ちゃん。10 人の姉の中では、姉属性が求める理想の姉像に最も近いであろう姉。「弟の背中を流したがる癖」だけでも、その甘やかし姉らしさは容易にお分かり頂けるはず。他の姉にいじめられたり、ひどいことをされたときに「よしよし」と言って慰めてくれるような、そんな優しいお姉ちゃん。れもん姉のような姉の比率をもっと高ければ…。

・花丸りんご（やらしい姉）

「やさしい姉」じゃありません。「やらしい姉」です。弟に対してやらしいことを仕掛けてきます。いじめっ子気質バリバリゆえ、実態は性的虐待。りんご姉の性格をよく表すセリフは「さあーて！今日も張り切って性的イタズラは始めるよ！」。私も、相手が姉なら、いじめるよりいじめられたいタイプなのでドンと来いですが、りんご姉の場合はいじめの裏にある姉弟愛が感じられずにしょんぼり。好きだから弟をいじめちゃう、だったら OK なのに。ちなみに声優が北都南さんなので、姉しよの要芽お姉様を思い起こしてゾクゾクするのもあり。

・花丸みかん（妹っぽい姉）

妹っぽい、ではなく、どちらかというと子どもっぽい姉の方が正確。思考回路に幼

さが残る（でも身体はボイン）、そんな姉です。「あそぼーよー」と無邪気に甘えてくることもあれば、すねたときは「見てる相手の心が痛む泣き真似」をすることもあるなど、したたかな面も見える姉。

・花丸ももこ（母のような姉）

子どもを連れて出戻ってきた姉です。長姉。母親フェロモン全開で迫ってきます。一家の中では良識派に属し、れもん姉同様優しく甘やかしてくれるお姉ちゃん。子どもはまだ小さいので、ボインにはお乳満タ状態。あとは、大体想像通りの展開です。

・花丸びわ（大和撫子な姉）

黒髪ロングで、性格は古き良き大和撫子、武道一筋な姉。いつも弓やら真剣やらを握っていて、弟のだらしない面を見るやいなや「修行が足りません」と斬りかかってくる。基本的に「ツン」なので、もし「デレ」が強ければ、良いツンデレ姉だったのに。

・花丸館禰（男嫌いの姉）

家でも学校でも女ばかりの環境で育ってきたので男嫌い・レズっ気の姉。こういう場合、弟だけは大丈夫のパターンが多いのに、なぜか弟もダメ。見かけはボーイッシュ、関西弁で、口より先に手が出ることも。

・花丸薫子（キャリア姉）

容姿端麗・頭脳明晰で、一流企業の重役秘書という完璧超人系の姉。バリバリのキャリアウーマンな面は格好いいのですが、逆に甘い面も見せて欲しかった。酔って絡んでくるのは素敵なんだけど。

・花丸琴葉（IQメガネ姉）

いつでもどこでも参考書を片手に勉強しているようなメガネ姉。おとなしい性格で、性的な面ではウブな（興味がない）方。でもや

っぱりボイン。内向的で、最も興味のあることが勉強なので、弟のことは目に入っていないフシがある。「構ってくれないと死んじゃう病」の我ら弟には辛いよ…。

・花丸瑠璃栖（オタクの姉）

同人作家で、やおいオタクな姉。弟である主人公を、やおい本のちょうどいいモデルとばかりに観察したり手を出したり。そっちの面のストーリーが強く、せっかくの姉要素は置き去り。実はMなお姉ちゃん。

・花丸時子（最終ボスの姉御の姉）

最終ボス的な姉御って何？最後までその真意は掴みかねましたが、このお姉ちゃん、アンドロイドです。色々と小難しい設定を並べたり、言われてみれば無機質な感情表現しかしないので、姉要素以前のキャラかも知れません。10人もの姉タイプを作るのは難しかったのか、息切れしているような一人でした。

■夢だったはずなのに…

12人の妹なる暴挙を敢行しながら成功した「シスタープリンセス」。その人数に迫る10人の姉環境は、我ら姉属性には夢のゲームだったのに、ふたを開けてみれば残念な内容でした。さすがに10人のヒロインを擁するギャルゲーは、相当な労力を要する超大作にならざるを得ず、ミドルレンジ価格帯のゲームでは無理があったのか。いや、本作が失敗しているのはボリュームだけの問題ではありません。弟に対する慈愛、姉に対する畏敬の念、これらからなる姉弟愛が絶対的に不足していたからです。姉ゲーの情趣を理解するスタッフによって作られていたなら、きっと良作になっていたはず。「姉好きでもないのに、姉ゲーは製作しないで欲しい」、これが今回の結論。



Lost Life ～だけど きみに つたえたいこと

メーカー	OVER ALL
ジャンル	純愛泣かれ ADV
発売日	2004 年 8 月 27 日

未来を持たない少年、桜木隆杜。

先天性心疾患を持ち、余命いくばくもないことを医者に宣告された。

彼はそれでも尚、不可避の死を眼前に見据え、前向きに生きることを心がけつつも、他者との距離を微妙にあけて生きてきた。誰も悲しませないように。

誰の心にも自分が残らないように。唯一の『家族』でさえも日向に置き、自らは日陰からそれを見つめていた。

それでも、努めているのは前向きな心。人を慈しむ想い。

その中で育まれる彼に繋がる境遇を持った少女達との交流。舐め合いと支え合い、語らいと交わり。その時間は彼女たち、そして彼に何を残すのか。

■『秋桜の空に・2』?

プレイする前から、ヒロインのお姉ちゃんが、元祖ダダ甘姉『秋桜の空に』(Marron)のヒロイン・すずねえに似ているな、と思っていました。主人公より1年上、「異常なまでの過保護」という紹介、才色兼備、そしてヘアスタイルと顔立ち。ストーリーもどこことなく似ているような…と公式サイトで把握していました。

そして実際にプレイしてみれば……これはまさしく『秋桜の空に』テイスト。ここまで似ていると、「秋桜?何それ?」なんて言い逃れはできないような…。

ただ、これはパクリだとか盗作だとか、そんなことを言うつもりは全くありません。このゲーム独特の世界は開けていますし。それに、あのすずねえのようなダダ甘お姉ちゃんにまた構ってもらえると思えば良し。

■純愛泣かれADV?

このゲームが主張している売りは、“泣かれゲー”であるということ。曰く、「悲運な主人公に少女達が涙を流してくれるという事に特化したものです」。主人公は心疾患で余命幾ばくもなく、今はまだかろうじて学校に通っているが、次第に身体は弱っていく状況にあります。自らの命が尽きるとき、そのことで最愛の人を悲しませたくないが故に距離を置こうとする主人公と、病気を知ってなお近づこうとするヒロインの葛藤と、そこに流される涙、がシナリオの要素の一つになっています。そして、確かにその通り、山場ではヒロイン達がよく泣いてくれます。よって、シナリオは必然的に感動系。比較的ベタなストーリーが多いですが、泣ける話が好きならば、この点はプラス要素なんじゃないでしょうか。「秋桜」が記憶の喪失だったのに対して、こちらは死という基本的かつ強力なテーマを扱っています。

■全体的なバランスはまあまあ

泣き方面だけでなく、萌え方面も頑張っているのですが、前者のウエイトが大きくて、後退してしまった印象。ここは甘さを演出すべきでしょう、という場面でそれを避けているかのような部分が多々見受けられました。

笑いの面では、要所要所で楽しませてくれます。特に、複数のキャラクターがたた

みかけるようにまくし立てるシーンは必見。お兄ちゃん大好きなブラコン妹・桐子ちゃんと、弟大好きなブラコン姉・茜お姉ちゃんの対決・WBC（ワールド・ブラコン・コンテスト）タイトルマッチなどは、なかなかの見ものです。

グラフィックは、絵柄的には『秋桜』『おねきゅー』のような感じ。所々危うげなどころがあるのも同じか。

エッチシーンは無難な程度。あまり濃くしても雰囲気合わないですし。画面をクリックして触る場所や衣服の着脱が選べるシステムがあり、すっぽんぽんにさせるか、最低限のものだけ脱がせるか⁴調節可能。

なお、シナリオの進行の面で少し特殊な点があるので、特にポリシーが無ければ、ネット上で攻略サイトを参考にしながら進めた方が良いのではないかと思います。

テキスト量は、やや多めに感じたものの、既読スキップで飛ぶところも多いので、結局は標準的。文章も読みやすい部類でした。気になる誤字が散見されるのは残念。

■ キャラクター

・ 桜木茜（義姉）

主人公と2人きりで同居するお姉ちゃん。『秋桜の空に』のすずねえの生まれ変わり、あるいは生き写しです。

ということは即ちダダ甘で過保護。朝起きてから夜寝るまで付きっきりの世話焼きで、主人公が倒れた時は駆けつけて大泣きです。

もちろん「弟独占欲」だって、他のダダ甘姉に負けないくらいあります。弟と仲良くする女の子を見つけたときは、盛大にヤキモチを焼き、

「桐子ちゃん！隆ちゃんへのアプローチは私を通してくれないとこまっちゃうぞ！」

「2人っきりで親密そうにお話ししてるの見えただぞ！隆ちゃんは私の弟なんだから、ダメ！」

と、小姑モード全開。

しかし、全く聞き分けがないお姉ちゃんではなく、「私も弟離れしないとね…」と殊勝な面もあり、弟の恋を見守ってくれる優しい姉でもあるのです。

さっきのセリフでも分かるとおり、弟に言い聞かせるときは、語尾に「…ぞ！」を付けることが多いので、やっぱりすずねえの姿とダブります。可愛がり方もすずねえ譲りなのですが、過保護指数は僅かに及ばないか⁵。料理は下手という設定もあり、騒動の種になっているのも違うところ。

姉属性にとって、どうしても譲れないところであり、改良して欲しかった点は、主人公からの呼び方が「茜ちゃん」だったこと。「茜姉」でも「茜お姉ちゃん」など、どんな呼び方にせよ、姉であることを意識させる呼び方にして欲しかったですね。

・ 橋島 柚葉（看護婦）

天然ドジでお茶目看護婦さん。ドジっ娘役としての全てを兼ね備え、ここで失敗するよね、と思ったら必ず期待に答えてくれる、大変分かりやすい看護婦さんです。

失敗してシュンとなったり、それでも前向きに頑張る姿もあったり。そう、これは『秋桜』のひより先生の役そのものです⁶。頼りなさげで、一緒にいてあげないと心配なタイプのお姉さん好きなら柚葉さんで決まり。

⁴ 下着を全部はぎ取るか、足のところで引っかけたままにするかも選べるのは、親切的システム。（筆者は引っかけたままにする派）

⁵ すずねえの過保護ぶりが異常なだけとも言う。

⁶ 違うのは、大きいところがお尻ではなく、胸であること。

・鹿島 美優（同級生）

口数少なく、声もおとなしい、不思議少女系クラスメイト。今まで目立たない存在だったのに、文化祭準備を境に、急に主人公へ接近してきます。

にこっ、とはするが、基本的に感情が読めないタイプ。あまりしゃべらない割には真顔で冗談を言って、「嘘です」と続けてくるパターンが多かったりします。知っている人なら、あの『ONE』の茜を思い起こさせるキャラクターです。

・中村 望（入院友達）

同じ病院に入院している、かつてからの仲良し。

主人公とは同い年だが、入院している期間が長く、発育不良のために見かけが小中学生レベル。いつも着ぐるみパジャマに加え、ぬいぐるみに見まがう小さな猫⁷を抱いているので、一層際だって幼く見えます。

性格もやや子どもっぽい面があるものの、きちんと一本芯の通った子でもあります。

話し方は特徴的。一人称が「中村」で、語尾が「のですよ」。たとえばこんな感じのセリフです。「隆杜さーん、中村が遊びに来たのですよ」

見かけが非常に幼いが同年齢、着ぐるみパジャマ、病弱…つまり『秋桜』のカナ坊の役が中村なのですよ。

・葉引 桐子（親友の妹）

主人公には同じクラスに親友の男友達がいる、その妹が桐子ちゃん。同じ学校に通っています。

桐子ちゃんは異常なまでのお兄ちゃん大好きブラコン娘。自分は身も心もお兄ちゃんのものと宣言し、大好きなお兄ちゃんに

近づいてくる輩には威嚇せんばかりの態度を取るほど。お兄ちゃんにラブラブベタベタぶりは呆れるばかりなんですが、これって我々姉属性がさんざん体験してきてまだ飽きない、バカップル姉弟の姿と全く同じなのではっ？そう気づいたとき、もう全て許したくなりました。過度にいちやつく兄弟姉妹の姿を客観的に見つめ直せるいい機会になるでしょう。

お兄ちゃん大好きなはずの桐子ちゃんが、どうして主人公に興味が向かうことになるのか。そもそも、なぜ桐子ちゃんは強度のブラコンなのか、がストーリーの主題で、このゲームの中では意外にもこの桐子ルートが最も良く楽しめました。

・石津 文（謎の女性）

病院近くの公園で偶然に出会った女性。年齢は明かされていないが、若干年上の印象があるキャラクターです。

公園のベンチで座っていることが多く、口数が非常に少ない、謎を秘めていますオーラが出ている感じ。

実際にも謎を秘めていて、最初からは攻略できなかったりもします。隠しキャラとしても成立しそうです。ストーリーも短めですし。

従って、文さんを攻略するのは最後にすることをお勧めします。

・葉引 直実（男友達・サブキャラ）

主人公と同じクラスの親友。自称ナンパ師で、見かけも性格も軽い男に見えるが、主人公のことを常に気遣ってフォローしてくれる良い奴。根は熱血漢で、そこがまた彼を格好良いキャラに仕立てあげています。直実のような、嫌らしさのない、かといって不思議君・生真面目君でもない親友キャラが一人いると、ゲームの良い引き立て役になります。

⁷ 名前は「コノヤロ」。普段はぬいぐるみのフリをしている。人語はしゃべらないが、人とは思え疎通できている。『AIR』のポテトとだぶる。

・葉引 忍（葉引兄妹の母・サブキャラ）

オトコマエな性格で姉御肌の母。二人暮らしの桜木姉弟にとっても母親のような存在。行動や言動が、レディース出身と思われるほど豪毅。「竹を割って粉々にしたような性格」とはよく言ったものです。

外見も若めで、額の傷が何かを物語る。歳のことを言うとシャレにならない展開になるのもステキ。

近いイメージは『A I R』の晴子さんでしょう。

・間 みゆき（主治医）

名前は「みゆき」でも男。無精ひげが伸び、屋上でタバコをふかすような、一見やる気のない不良医師に見えるが、一応腕は確か、という設定。

余命僅かな主人公に対して、「おう、まだ生きてっか？」と声をかけるような、粗雑な物言いをする医者ではあるものの、それは主人公との長年の付き合いから生まれたもの。医者と患者という関係を越えた付き合いができています。病院が舞台の一つになれば、主治医を女医にしがちなところを、おっさん先生にしたのは成功なんじゃないでしょうか。

・中村夫妻（中村望の両親）

大会社の社長と、その夫人。

多忙故に、なかなか娘の見舞いには来られない。主人公のことをいたく気に入っていて、見舞いに来たときごとに望との結婚話を持ち出し、望ちゃんと主人公を恥ずかしがらせるお茶目夫妻。登場回数は多くはないが、印象に残ります。

望ちゃん＝カナ坊であることは前述の通りですが、カナ坊の両親もお金持ちで、何かと主人公とくっつけたがる性格だったことを考えると、またまた『秋桜』とこのゲームがダブってきます。

・小児科入院中の子ども3人組

麻衣ちゃん、蓬ちゃん、翔太君の子ども3人組。主人公や望ちゃんをお兄ちゃん・お姉ちゃんと慕って遊びにきます。見ていだけで微笑ましくなる子ども達ですが、望シナリオでは良い触媒キャラとして活躍。上手い使い方をしています。

■及第点はクリアの本

とにかく、あまりにも『秋桜の空に』を思い起こさせるゲームなのは、私だけでしょうか。しかし、だからといってそのことが悪くは感じませんでした。『秋桜』のような世界や雰囲気が好きなら、本作も十分に楽しめると思います。

さらに広く言えば、『ONE』や『KANON』、『A I R』のようなノベル好きにも楽しめる1本と言えるでしょう。

実際はどうか分かりませんが、これらの系統のゲームに、意識的にも無意識的にも大きく影響を受けたスタッフによって作られたのではないかと考えています。そして、目指したであろうゲームにおおむね完成はしているのですが、あと少し、何かが足りなかったというのも素直な感想です。その「何か」が何なのかが言えれば誰も苦労しないわけですが。もし「何か」があれば、『秋桜の空に』と並び称されるゲームになったと思います。

ともあれ、メインのヒロインがお姉ちゃん、しかも二人っきりの同居、そして何より「ダダ甘お姉ちゃん」という事実。この1点で、多少の物足りなさはカバーされました。

最近どうもダダ甘姉成分が欠けて、調子が良くないと感じている貴弟には、最適のダダ甘栄養補給の1本としてお勧めできる姉ゲーです。



アメリカノ・プリーズ

メーカー	アクトレス
ジャンル	ラブラブ喫茶店アドベンチャー
発売日	2004年7月30日

主人公・霧島拓人は卒業を間近に控えた暇人の大学生。ふとしたことから、従姉の務める喫茶店で1週間だけの手伝いをするようになった。が、拓人はそこで、彼女が近々隣の県にオープンする予定の『喫茶ほのか』の支店長候補になっているという話を聞く。

それは、実姉のような、そして恋人のような存在、霧島有希子との別れを意味していた！

『喫茶ほのか』は有希子の他にも個性的で魅力的な女性店員ばかり。それに加えて丁寧なサービスも手伝って、こじんまりしているけれども、近所では有名な喫茶店。

「タダでさえ有希姉とは微妙な関係なのに……」

大きな不安と、小さな期待に揺れながら、拓人の1週間が始まろうとしていた。

■お姉ちゃんと喫茶店でバイト

アクトレスといえば、去年『チェリーボーイにくびったけ』で、姉2人+若いママに囲まれる夢の生活を描いたブランドですが、今回は1人に絞られてしまったものの、メインヒロイン役をお姉ちゃんが務めています。また、ママキャラは「幼馴染みの女の子のママ」に変更。姉とママという、2大年上近親属性を押さえてのゲームとして期待が高まりました。

主な舞台は、制服の可愛い喫茶店。お姉ちゃんの有希姉が勤めている店に主人公がアルバイトを始めるところからスタートします。支店長からウェイトレスまで、主人公以外全て女性で、かつ攻略可能。1週間のアルバイト期間中にお姉ちゃんを含む女の子の誰かを落とす、というのが大まかなゲームの流れです。

■喫茶店ゲームだからって…

1日の流れは、朝起きる（時には姉といちゃいちゃ）→喫茶店でバイト→帰る（時には姉といちゃいちゃ）が基本。いや、基本というより、それだけ。ほとんど1日中フルタイムで仕事です。他の女の子も全員。よって、ストーリーは全てお店で進行。

ならば、店の中であんなこんな嬉し恥ずかしいイベントが山盛りかというのと、そうでもなく、仕事の面では厳しい支店長やチーフに調理や盛りつけ、皿洗いなどを仕込まれながら話が進みます。

これは…スタッフの中にファミレス経験者がいるでしょ？一応これはギャルゲーなんだから、狙った女の子といかに仲良くなっていくかという点に重点を置いて、主人公がバイトのスキルを上げていく過程はどうでもいいんだけどな…、とずっと感じてしまいました。

しかも、ストーリーは手抜き気味でがっかり。というのは、7日目にあるデートイベント直前までは5人のヒロインともほぼ共通のルートで、個別シナリオはデートの日1日だけ。共通ルートは、狙った女の子と特別なイベントが起きたりすることもないので、無難な話しか続かないのに、遊園地に行った途端に急に親密になって、その日のうちにご自宅へお持ち帰りという安直ぶりです。それぞれのヒロインごとのシナリオをもっと用意してくれても…。そのせいで、各ヒロインの印象はかなり薄いです。もったいない。

■お姉ちゃんと既に関係済み？

よくある姉ゲーだと、主人公はお姉ちゃんのことを気にしたり、姉の方でも弟を可愛がったり、甘やかしたり、時にはいじめたりしながら、でも一線はなかなか越えられない、でも越えたい、そんなもどかしさを描いたりするものですが、本作は例外。なんかもう既に関係出来ちゃってますよ？ストーリー前半でごく普通にお風呂で一緒に良いことしちゃうし！「何度も身体を重ねた仲」みたいなことを言い出すし！このゲームの本当の主人公である俺様より先にお姉ちゃんとうろしくやってるとは何事かっ。何だか既に寝取られた気分⁸。ゲーム中の主人公に何となく感情移入できなかったのは、この辺が原因かも知れず。

■キャラクター

・霧島有希子（従姉）

メインヒロインのお姉ちゃん。独り暮らしの主人公と同居ではないが、毎日のように朝に訪ねてきては朝ご飯を作ってくれたり、夜も一緒に帰ってきては夕ご飯を作ってくれたりする面倒見の良いお姉ちゃん。母性的な面の強い姉でもあります。

そんな有希姉も、一旦仕事場であるお店に入れば、チーフとしててきぱきと仕事をこなす有能な女性に変身。まだひよっこである主人公を優しく教育してくれます。

前述の通り、有希姉はもう既に弟とは良い関係に出来上がり済み。よって、序盤からラブラブモードで突き進みます。おはよのチューとか、一緒に腕を組んで通勤などは当然です。夜は夜で、口でわざわざ言わなくても分かり合っているかのように、

仲良く姉弟のスキンシップ。その様子はもう新婚さんのよう。そういう関係になるまでの所も含めて有希姉を見られたらもっと良かったのに、それが残念。

このゲームの大きな話の流れの一つが、「お姉ちゃんが別の支店に行くことになりそうだが、その時主人公は？」のはずだったのに、それはもうどうでもいいようなことになっています。だって、もう姉と身体を重ねる仲間なんですもんね(まだ言うか)。

なお、結構甘えん坊なお姉ちゃんでもあります。

有希姉は、左手の人差し指で僕の胸を『つつん』とつつく。

胸に当てたまま、指先をぐるぐると回す。

・倉野 美由（幼馴染み）

主人公の幼馴染みで1つ年下。年齢も見かけも妹ポジション。喫茶店の店長の娘で、看板娘。

いつも勝ち気で好意を素直に出せず、常に主人公に突っかかってくる。こちらが優しく出たりすると焦っておろおろするのもお約束。そう、これぞまさしくツンデレ。ツン。

「そっ、そこまで言うなら…行ってあげても…、いいかもしれないわよ」

デレ。

「お母さんに負けないくらい、きれいになるから。だから…」

有希姉と仲良くしているのを見つけてヤキモチを焼く係。

「仲がいいわねえーだ！うらやましくなんか、ないんだから！」

⁸ 寝取られゲーを忌み嫌う人の気持ちがちよっと分かった。

・倉野 杏奈（支店長）

支店長であり、幼馴染みの美由ちゃんの母親。

母親と言っても、この業界のご多分に漏れずかなりの若作り。むしろ姉。しかし性格は母性的です。旦那とは死別。

主人公のことは小さい頃から知っているということもあり、最初から優しく接してくれます。ただし、仕事の面ではきっちりしている人なので、そのことがむしろプライベートでの甘さを引き出しています。

年の離れたキャラクターの定番の言い回しは標準装備。本書の読者ならお分かりのように、こんな感じのを。

「うふ……」

甘えるようにほっぺたをすりすりとしてくる。

「だめだぞ、年上をかわいいなんて……、うふふふ……」

なお、娘・美由も主人公に好意を寄せていることを知っているの、その辺の絡みも楽しめるかと。

・柿崎あゆみ（ウェイトレス）

チーフを目指しているウェイトレス。後述の柿崎みさきの姉。明るく活発なタイプの女の子。

主人公から見て年上であり、かつ先輩でもあるが、あまり先輩っぽく振る舞ってこない⁹のが残念。出しゃばらず、腰が低めの性格ゆえとは言え、もうちょっとリードしてくれるようなお姉さんならと思わずにはいられません。

シナリオはほとんど無いも同然で寂しい。このゲームにおける存在価値すら疑われます。表向き明るく振る舞う陰に何かあるとか、ちょっとした事情でもあれば印象に残

れたはず。そういったものがないので、結局年上としても先輩としても見られませんでした。

・柿崎みさき（ウェイトレス）

あゆみの妹で、主人公と同年代で、同じくアルバイト。優しくてよく気が付くタイプの女の子。

姉に比べればややおとなしめ。姉思いというキャラクター設定はあったようだが、実際にはそれほどでもなく、また姉同様シナリオがほとんど無いと言ってよく、こちらも大変印象の薄いキャラクターになってしまった。

■不満の多い結果に

喫茶店やファミレスを舞台にしたゲームは数多くありますが¹⁰、それはあくまで核となる場面の一つであって、駅前があったり、公園があったり、たまには女の子の部屋に押しかけたり。そういったのが無く、ひたすら店内で話を進めるのは無理があるというもの。仕事以外の場面を見られるのが、最後のちょっとしたデートイベントだけでは物足りなさ過ぎます。

それに、全シナリオの8割方が共通ルートなのは手抜きと言われても仕方ないのでは？最後まで柿崎姉妹の存在価値は見いだせませんでした。

救われる点を挙げれば、有希姉との新婚生活のような甘甘っぷりと、杏奈ママの照れ照れ年上っぷりでしょうか。杏奈さんとは終盤かなり面白いことになるので、最後まできっちり見届けておくことをおすすめします。主人公を巡る、娘+ママの三角関係はこれから流行る…のか？

⁹ 妹のみさきに対しては、多少姉っぽい所も見せるのですが。

¹⁰ 個人的にはどうしても Pia キャロシリーズと比較してしまう。



あねいも～アイとHのステップアップ

メーカー	ぶちばじゃま
ジャンル	姉妹 LOVE エロアドベンチャー
発売日	2004 年 9 月 17 日

しっかりものの優しい姉『真奈美』。ちょっと気が強いけど、元気な妹『まどか』。そんな姉妹と一つ屋根の下で共に暮らす主人公『結城和也』。たまには喧嘩もするけど、仲の良い理想の家族。しかし、姉妹と和也は本当の家族ではなかった。和也がまだ幼い頃に、和也の父が身寄りのない姉妹を引き取ったのだ。

それから10年——母を事故で失うという不幸を乗り越え、ただの同居人にすぎなかった姉妹は和也にとって家族に等しい大切な存在に変わっていく。目に見えない堅い絆に支えられながら生活していく中で、姉妹は和也に家族ではなく一人の男性として想いを寄せていく。しかし、赤の他人とはいえ和也と姉妹は家族同然の間柄。姉妹は自らの想いを和也に伝えることは出来ない。

近くて遠い存在。限りなく家族に近いけど、本当は赤の他人。そんな微妙な関係が続けていたある日、父親の海外へ長期出向が決まる。姉妹と3人だけの生活。停滞していた時間がゆっくりと動き出す。そしていつしか恋は愛へ。Hはエロに進化していく。『あなたのことが好きだから……どんなことでもしてあげられる』愛と欲望。そして——無限大の愛に包まれたSEXライフが今始まる。

■姉+妹で『あねいも』

突然に増えた「姉妹」という家族。世間では滅多にないシチュエーションですが、ゲームの世界では日常茶飯事な設定の姉ゲーです。

姉ゲーと言っても、妹まで付いてくるので、50%姉ゲーか…それでもまあいっか、ぐらいの気持ちで始めました。

主人公と姉妹と一緒に住むようになったのは10年前で、ゲーム開始時は既に家族同然の仲になっています。

お姉ちゃんは優しい母性系で、微天然。妹はバスケット少女でガサツ・活発なタイプ。主人公に突っかかっている妹を、仲が良いのねと見ている姉に挟まれる家族の風景から始まります。

特に奇抜な設定や会話もなく、どこにでもあるような家庭の一コマなんですが、姉妹の居ない家に生まれ育った私や同じような同志諸弟には、何度見ても和むもののはず。この空気はゲーム中ずっと続き、心地よく感じました。

■一見地味ながら良作

さて、このゲーム、「愛+エロ=LOVE エロ」なるキャッチコピー¹¹の通り、徹頭徹尾純愛モノです。そして、舞台となるのも普通の日常で、SF要素も一切無い、ごくありきたりなストーリー。しかし、奇をてらわずに、真っ正面の近親ラブストーリーを目指しているのは好印象でした。クラスメートや近所のお姉さんでは表現できない、姉や妹という身近な存在が恋愛対象となる近親ものならではの魅力を理解した上で製作された良作と言ってよいでしょう。

また、低価格ブランドのゲーム故に、ヒロインは姉と妹の二人しかいませんが、もし他に攻略可能なヒロインがいたら、余計な外野にしかならなかったはず。家族の中で完結しているからこそ、テーマの一つで

¹¹ 「愛+エロ」って、ただ単に「純愛エロゲ」と同じ意味だけど。

ある「家族の愛情」がよく伝わって来るんです。ヒロインが二人に絞られているのは、ゲームにあまり時間の割けない多忙な人でも容易にコンプリートでき、プラス要素と言えるかもしれません¹²。

また、このゲームは、姉ルート・妹ルートのどちらを選んでも、姉妹 vs 主人公の微妙な三角関係が表れるシーンがあり、そしてそれが見ものです。

全体的な作り、グラフィックなどに安っぽさは感じられず、綺麗にまとまっています。音楽も I've で、KOTOKO さんの主題歌付きです。

■意外に楽しめる H シーン

H シーンは、純愛モノとしてはほどほどに濃厚。サブタイトル「アイと H のステップアップ」の文字通り、お互い初めて同士が回数を重ねるごとにステップアップして盛り上がっていく、という流れになっています。

これは相手がお姉さんのときもそうなので、実は「お姉さんが教えてあげる」タイプの H シーンを期待しているとがっかりかも。包み込んでくれるような優しい雰囲気は感じさせてくれるんですけどね。

同居姉妹がヒロインのゲームの強みで、一度結ばれると、それからは毎晩、姉 or 妹の部屋に通って、気分は既に新婚さん状態。H の味を覚えたての時の、やりたい盛んな二人がよく表現されていて、より一層純愛な雰囲気が感じられました。

システム面では、最後の「中／外」の選択肢の選び方で、次からの会話も微妙に変化するようになっています。

コスプレ¹³などバリエーションも持たせ

て飽きがないように配慮されていますが、終盤に若干使い回しもあり、少々残念なところ。

なお、主人公はおっぱい星人のようです。

真奈美「もし赤ちゃんが出来ても、右のおっぱいは和くん、左のおっぱいは赤ちゃんって決めておけばいいのよ」

和也「そっか、ならこっちのおっぱいは永遠に俺のもんだ」

加えて、姉妹そろって妊娠願望がかなり強い。ラージぽんぽん好きは非常に大きな買い要素ではないかと。

しかも、シナリオライターの中に子宮マニアが居ると思われます。女体の奥深い神秘を見たい方はどうぞ。

■キャラクター

・遠野真奈美（義姉）

清楚でおおらか、和風美人な母性系のお姉さん。家事全般をそつなくこなす良妻賢母タイプです。基本はあくまで母性系ですが、

真奈美「いいから、お姉さんの言うことは素直に聞くものよ」

なんて弟殺しなセリフも言ってくれるので、気が抜けません。

性格はもちろん優しくて、控えめ。常に弟・妹のことを気にかけているお姉さんなのです。すなわち、姉弟愛も姉妹愛も溢れる姉の鑑。

そのあまりに優しくて、自分よりも家族を立てる控えめな性格ならではのイベントが真奈美さんには用意されています。過ぎた優しさは、時に障害ともなる、といった内容の。

¹² ただし、一人分のシナリオ量は標準的です。

¹³ セーラー服、体操服、巫女装束、裸エブ、メイド、パニー、競泳水着、チャイナ服等々。

主人公にとっては、真奈美さんは初恋の女性。「好き」の感情は、はじめは恋愛だったのに、いつしか家族愛に。そして今ふたび…と展開していきます。

一旦ラブラブになった後の真奈美お姉さんは一層積極的になり、「和くん（主人公）のためなら！」と甘甘になってくれます。必殺技のおっぱい抱きかかえ術も炸裂し、無敵状態。主人公もお姉さんのことしか見えなくなって、バカップル姉弟モードです。スバラシイ。

・遠野まどか（義妹）

バスケ部のエースで、ポニーテールな妹。明るくて気が強く、がさつで、口より先に手が出る元気娘です。

と、そんな感じの性格よりも何よりも、とにかくツンデレ。頭の前からつま先までツンデレ。ツンデレの、ツンデレによる、ツンデレのためのヒロインです。

序盤では本当によく突っかかってきます。「和兄のバカァーッ！」とスポーツバッグを振り回して、主人公をノックアウトするのは日常。まあ、主人公もちょっと度が過ぎる憎まれ口を叩くので、おあいこという面もあるのですが。

そうやって兄に突っかかってくる中でも、たまに

まどか「だ、誰が和兄なんかと……あつ、で、でも和兄がどうしてもって言うなら……行ってあげなくもないかなあ、なんて……」

と、顔を少し赤らめながら言うセリフの不意打ちもあるので要注意。

本当は好意を持っているのに、素直に出せないもどかしさの表れとしての「ツン」が激しければ激しいほど、「デレ」の甘さが引き立つのがツンデレの法則。まどかも例外に漏れず、大甘になります。ツン→デレの転換点は、ベタで王道な演出だけに、こ

れもまた大いに萌えます。

姉も姉なら妹も妹で、「私は、身も心も和兄のものだよ？和兄の言うことなら何でもしてあげるよ？」と、積極的に迫りまくって来ます。

これだけ書くと、単純なツンデレキャラのように見えますが、姉そして主人公の家族関係を大事にしていることを表現している面もあり、深みのあるキャラクターになっていると言えるでしょう。

妹としての側面で言えば、まどかは普段あまり妹キャラっぽくない性格付けなので、妹アレルギーの方にも楽しめます。むしろ、「妹」に期待して買ってしまったお兄ちゃんのがっかりだったのでは？

■コンパクトにまとまった良作

冒頭で「50%姉ゲー」と書いたように、真奈美お姉さんのシナリオだけでも楽しめたら十分とばかり、大きな期待をかけずプレイしてみたら、意外にも最後まで楽しんでしまいました。

強烈な個性や、劇的なストーリーがあるでもなく、登場人物も少ないので、一般的な観点からは物足りないゲームと映るかも知れません。

しかし、「姉と妹」という主題に的を絞ってコンパクトにまとめ上げた本作は、近親好きな諸弟・諸兄には満足のできる1本なのではないかと思います。

大作をプレイするほどの時間がとれない、姉と弟の関係だけでなく、姉と妹の関係に萌える、家庭内恋愛の願望が強い、そんな姉ゲープレイヤーには、手軽で満足感の得られる『あねいも』は楽しめるゲームと言えるでしょう。



まもらぶ

メーカー	HERMIT
ジャンル	一つ屋根の下愛情たっぷり AVG
発売日	2004 年 10 月 29 日

どこの街にも必ず一つはありそうな分譲マンション、フローリアス樹ヶ丘。その『5階』に暮らす3組の家庭。3家族は、部屋ごとの垣根もなく、全員が家族同然の扱い。隠し事なんて水臭い。包み隠さずフランクに——そんな風に、彼らは和気藹々と、ごくごく普通のご近所付き合いをしていました。ところが、たった一つだけ、秘密があったのです。実は……502号室の『息子』と503号室の『お母さん』は、恋人同士だったのです。

未亡人、藤枝涼子。主人公より一つ年下の娘がいるとは思えない、かわいい女性。

涼子の一人娘であり、同級生でもある、藤枝小雪。

突然アメリカからやってくる、主人公の許婚、クリス。

見た目は清楚、表の顔は従順可憐な萌え妹、菊永瑠璃。

501号室の秋月かおりは、ちょっと年上の大学生。

主人公は、そんなお色気たっぷりの誘惑をかいくぐって、無事、本命涼子と、Hできるのか？それとも、彼女たちの誘惑に負けて、新しい恋を選ぶのか。

全8話からなる、ホームドラマ仕立てのドタバタ恋愛コメディ。

■傑作ホームドラマ！

「一つ屋根の下愛情たっぷり AVG」のジャンル名の通りで、とても優しい空気が流れる、とある家族のラブコメディ。

家族と言っても、マンションの5階に住む父子家庭＋母子家庭＋独り暮らし姉が、垣根無く一つの家族のような付き合いをしている、そういう家族。そんな家族の中の恋愛ドタバタ劇がホームドラマ仕立てで繰り広げられます。ヒロイン5人の誰のシナリオを選んでも、それは一家全員を巻き込む事件となって、時にはくつつき、時には

離れながらも、家族愛に包まれたハッピーエンド。たっぷりの笑いと萌え、隠し味にちょっとした涙が詰め込まれたホームドラマとして、姉萌えもママ萌えもお勧めの1本。

■巧みな演出と冴えたギャグ

本作はテレビのホームドラマ、特にアメリカンドラマ風の演出が施された、全8話からなるストーリーで進行します。

1話平均 30 分程で読み進めることにはなるのですが、この区切り方が上手。読み手の気分メリハリが付き、ストーリー自体の面白さと相まって、ぐいぐい引き込まれること引き込まれること。

個々の話の中でも、アメリカンジョーク的なオチで締め→場面切り替え、という演出が頻出。これ、下手なライターが手を出して外した日には目も当てられない寒さに陥るんですが、本作に至っては事も無げにクリア。余裕さえ感じられます。

冴えているのはギャグだけでなくストーリーも。家族全員を巻き込んで、散らかった後でも最後には綺麗に収まる、にくいストーリー。読後感が非常に優れている理由はこの辺でしょう。

キャラクターの個性が光っているのは言わずもがな。テレビドラマ的演出を意識して、テキストの大部分が会話で構成され、心理描写はほとんどなされないのですが、キャラクターの気持ちが活き活きと伝わってきます。ヒロイン同士の掛け合いが楽しいゲームにハズレ無し。

■キャラクター

・藤枝涼子（ママ）

お隣だけど事実上同居のような、育てのママ。高校生になる娘・小雪がいるが、「妖怪並みの年齢不詳さ」で、可愛いとほめると「おばさんに可愛いなんて言うんじゃないやしません」と諭されるくらい可愛いママ。

主人公のことは、愛娘と同じくらい大事に思ってくれていて、親の愛情を思いっきり感じさせてくれます。

ボイスも魅力的で、まきいずみさんによる、敢えて舌足らずっぽく幼めな声がピッタリ。耳について離れなくなりますよ？

・藤枝小雪（お隣の女の子）

1歳年下だが妹キャラではなく、どちらかというと幼馴染みタイプ。口うるさくてお節介なツッコミ役。涼子ママのことが大好きで、主人公のことも好き。それが災いして、主人公とママの関係に振り回される大変な役回りながらも、健気で一途な姿が魅力的。涼子編の小雪ちゃんは良い子過ぎて涙が出ます。

ランク S のツンデレ娘なので、ツンデレラーは必見。

・秋月かおり（お隣の姉）

大学生にして官能小説ライター。無防備な格好で部屋をうろつき、恥ずかしげもなく淫語を並び立てるような困ったお姉さん。

主人公への接し方も年上らしいいじり方で、かつ、恐ろしいほどの誘惑姉だが、

浩二「だから姉ちゃん大好きさ」

かおり「ふふ…そうか、大好きかあ」

浩二「重いよ姉ちゃん。そんなによっかかるなよ」

かおり「いいじゃん弟。あったかいだろ？姉ちゃん今、とっても気分がいいんだ」

と時には優しい面もあって素敵。

シナリオの最後は新鮮な展開。こういう姉もアリです。

一色ヒカルさんの姉ボイスも最高。

・クリスティーナ（おしかけ婚約者）

父がアメリカで知り合った女性の娘。主人公の住むマンションに押しかけてきて、なし崩し的に同居を始める。

金髪碧眼脳天気、間違った日本知識、主人公のことが絡むと周囲が見えなくなる思い込み屋と、安心してみていられるお約束アメリカ少女。穏やかな一家のスパイス役です。もうちょっと萌え要素を高めてくれたら良かったかも。

・菊永瑠璃（黒妹）

かつて住んでいた近所の、遠縁の女の子。主人公とは事実上の兄と妹の関係だが、「お兄ちゃん私の奴隷なんだからね」と完全に見下した態度を取る。態度も態度なら、思考回路も相当に曲がっていて、髪の色から腹の中まで真っ黒け。でも、この黒さが魅力。妹属性の偉い人から聞くとところによれば、黒妹は妹キャラの境地らしいですが、本当にこれで良いんですか？

■良質家族ゲーでほっと一息

毎日顔を合わせる、合わさざるを得ない家族だからこそ言えること、言えないこと。家族愛と恋愛感情は両立するのか、いや、そもそも異質の愛情なのか。姉ゲーを追いかけると自然に家族モノに行き当たるわけですが、『まもらぶ』もそんな思いにかられるホームドラマでした。

プレイしていて、これだけホッとできるゲームは久しぶり。心とむドラマに飢えている人はぜひ『まもらぶ』で潤いを。今ならおまけにママ属性まで付けられますよ。

2004 下半期 姉コミックレビュー

PC ゲーム業界では姉モノがある程度安定して供給されているのに比べ、姉コミックは低調のような気がします。単純比較はできないことを承知で言えば、市場に出る本数はコミックの方がずっと多いはずなのに、姉要素の強いコミックは比率がまだまだ。出たとしても、ピントのずれた姉コミックが多かったりで残念。

それでもめげずに追い求めます。今号の紹介は3冊。

つつみあかり『姉の淫腔(あな)』

いずみコミックス/ISBN4870765802

下半期と言わず、2004年のベスト姉コミックに挙げたい1冊。

2003年にPINEから発売された姉ゲー「アネもネ」の原画家つつみあかり先生自らが描き下ろした同作品のアフターストーリーが6編(6人の姉ごとに1編ずつ)と、オリジナル姉コミックが3編と、1ページ目から奥付、カバー下の表紙まで全て姉仕様の単行本です。

原作ゲーム「アネもネ」は、姉萌え1000%の触れ込みで発売されたものの、システムとストーリーに難があって、正直今一步だったんですが、キャラクターと設定はこのまま埋もれてさせてしまうには惜しいお姉ちゃんばかり。それを原画家のつつみ先生自らが救い出してくれました。

内容は、オリジナルも「アネもネ編」も、姉の本質をズバリ突いたものばかり。成年コミック・1話16p完結の制限の中で実に見事に姉要素を満たしてくれます。

そんなことができるのも、作者自身が姉好きの同志だからこそ。やはり姉コミックは姉の情趣を理解してくれる作者にの手にするのが一番です。

なお、「アネもネ」をプレイしたことが無くても十分楽しめます。

茜虎徹『ツバメしんどろ〜む』全2巻続刊中

角川コミックスドラゴンJr./ISBN4047123684

月刊ドラゴンエイジ連載の「ドキドキ姉コミック」(裏表紙より)。

姉さんにドキドキすると宇宙怪物を呼び寄せてしまう厄介な体質の主人公はツバメ姉さんと2人暮らし。銀河連邦調査官であるツバメ姉さんは、弟を守るために華麗に変身して怪物と戦う…というお話。普段はマイペースでほんわか優しい弟思いのツバメ姉さんと、非常時には凜として戦うカッコ良さのギャップがステキ。ファンタジー系のコミックが好きならチェックを。

北川みゆき『罪に濡れたふたり』(全18巻)

小学館フラワーコミックス/ISBN4091371345

MONTHLY Cheese!連載の少女漫画(中高生向け?)。

主人公の女子大生・香澄は傷心旅行先のローマで会った日本人と一夜を共にするが、偶然にも彼は実の弟だったことを帰国後に知る。近親相姦も何のその、姉弟は強くお互いに惹かれながら、実の姉弟であるが故に立ちはだかる数々の難関。姉は姉で男友達に振り回され、弟はストーカーまがいの女につきまとわれ、あげくには姉弟の仲を認められない母も登場し、何転したか数えられないほどどろどろの底なし沼の愛憎劇が繰り広げられます。

実際は姉弟でなく兄妹でもストーリーが成り立ちちゃったりするんですが、あくまで近親相姦における愛がテーマなので、その点に注目。インセストに対する背徳感、世間の目にマヒ気味の諸弟は新鮮かも。

～漫画に見る「ジョーカー姉」～

少年誌のマンガにおいては、(1)主人公がガキ大将的で、周囲から一目置かれている場合(2)腕力の面でさらに上を行く姉が用意されていることにお気づきだろうか。

例えとして一姉でも主人公でもないが―「ドラえもん」界ヒエラルキーで最上位に君臨するジャイアンに対するその母ちゃんが分かりやすい。

我が物顔で振る舞う主人公に敢えて頂点を与えず、姉という弱点を置くのはもはや定石。「あの暴れん坊も姉にはかなわないのでした、チャンチャン」とオチに使われやすい姉だが、姉属性から見れば実に良い扱いで、姉によるお仕置きなんて展開に至れば、受け身がちな我ら姉属性はもう…

トランプの「大富豪」における最高位・2をも打ち負かすジョーカーの如く、主人公の暴走ストッパーを務める素敵腕っ節お姉さんの数々。その何人かを挙げてみたい。

美鳥の日々（井上和郎／少年サンデー）

つい最近アニメ化された同作品、主人公の沢村正治はケンカ最強で外見も厳しい不良高校生。凶犬の異名も持ち、腕力では怖い者無しのはずの彼が唯一恐れるのは、やはり姉。凜姉さんである。

凜姉さんは元暴走族のリーダーという経歴を持ち、弟正治をいじめるのが生き甲斐というステキ姉さん。姉が登場すれば、日頃の威勢は消えうせ、姉に振り回される弟主人公。手荒い真似は日常だが、これでしっかり弟思いの面もあるので油断できない。

惜しむらくは、同居姉ではないため出番が少ないこと。男気のあるカッコイイ姐さんなのに。

ゲッチューまごころ便

（緋采俊樹／少年チャンピオン）

まごころ便・多摩営業所を舞台にしたドタバタコメディ。主人公の高校生・後藤紅男は、宅配便の仕事で鍛えあげられた腕力と、生来のお調子者気質で常にトラブルメーカー。調子に乗りすぎて收拾がつかなくなった時にナイスタイミングで登場するのは姉の火呼(かこ)姉である。並外れた体力の主人公を数倍上回る火呼姉は同作品中最強の存在。周囲を巻き込み暴走する弟主人公をストップ…どころか粉碎。見事に。

母親のいない一家にとって母親役も務めていたり、何だかんだで弟思いの面も見られる火呼姉は姉の理想像の一つ。

漫画は各話読み切り、ヒューマンタッチで万人にお勧め。全17巻で、姉の出番も多く、読み応えあり。

あまいぞ!男吾

（Moo.念平／コロコロコミック）

この題名にグッと来たとしたら、筆者と同年代。かつてのコロコロコミックで長く連載され、多くの小学生にトラウマを残した王道少年漫画である。

主人公・巴男吾は熱血かつ腕白、コロコロのスローガン「勇気・友情・闘志」を絵にしたような少年で、良くも悪くも周囲から一目置かれる存在。ガキ大将の男吾も家に帰れば、女剣士、がさつで男勝りな知子(しるこ)姉には勝てない、という案配。

小学生にはまぶしいポニー&セーラー服なのもポイントだが、連載中期にはほとんど姿を消してしまうのが惜しい。

なお、英知出版から近年復刻されている。

ここまでお読み下さり、ありがとうございます。

今回も無事に刊行にこぎ着けました。

そろそろ原稿を形にしなければならない時期になって、予定外の話題作「ナースにおまかせ」「まもらぶ」が相次いで出されたおかげで、嬉しい悲鳴をあげながら書きました。予定していた「そらうた」(Frontwing)は間に合いませんでした。

姉ゲーに本格的に注目してプレイするようになるのも2年目にさしかかりましたが、少しは見る目が肥えてきたカナ? 「姉とボイン」は危ない匂いがする…という予感は当たってしまったし。でも、「ナース」と「まもらぶ」は見落としかねなかった時点でまだまだでしょうけど。

しかし、姉ゲー安定成長期に入りつつある現在、ひたひたと忍び寄るママ&人妻属性の新たな波に戸惑いを隠し切れません。Web上では全ママ連も旗揚げされましたし。同じ年上ジャンルとして、姉属性なら十中八九ママも守備範囲じゃないのでしょうか。今でこそ姉ゲーと一緒に扱っていますが、いずれ「別冊・ママゲーフリーク」なんて出さねばならなくなるかも知れません。

それではまた、サイト上で、あるいはオフラインでお会いしましょう。

全姉連会報 第3号

発 行： 全姉連 総本部

発行日： 2004 年 12 月 30 日

著 者： 全姉連総裁

連絡先： sousai@zenaneren.org

全姉連総本部 <http://www.zenaneren.org/>

(mobile : <http://www.zenaneren.org/a.cgi>)



本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。

姉属性
専門 全姉連.org